三鷹市立第四小学校　令和8年度 【家庭】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第5学年	【成果】 〇初めて学ぶ教科であるため、どの児童も意欲的に取り組むことができた。 〇実習では、デジタル教科書やタブレットを効果的に使用しながら、安全に学習を進めることができた。 【課題】 〇技能面での差が大きく、個別の支援を工夫する必要がある。	【現状】 〇調理は、学校で実習することで、知識として学んだことを実践することができた。また、学習アシスタントの支援のもと安全に実習を行うことができた。 〇裁縫は、初めて手縫いをする児童も多かったが、互いに教え合いながら、学習を進めることができた。 【課題】 〇包丁の使い方など、担任一人で安全管理をすることは難しい。学習アシスタントの支援を有効に活用していくことが必要。 〇生活経験による技能の差が大きい。授業の進め方や支援の仕方を工夫する必要がある。	【習得と活用】 〇自分の生活を想起し、学習内容とつながる授業づくりを心掛け、日常生活の中で意識していない行動が家庭生活を支える大切な仕事であることを実感できるようにする。 〇児童が学習した知識や技能を日常生活や長期休業中に繰り返し実践できるようにするため、家庭科の学習のねらいや内容について、学年便りや保護者会等を通して情報を提供して、家族に学習の意義や内容を伝え、家庭の協力を仰ぐ。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎制作や調理実習等の体験を通して理解したことを、発表等の言語活動を通して理解を深め、家庭学習としてノートへの記述やレポート作成をして知識として確実に定着させる。
第6学年	【成果】 〇調理実習など、実習を実施できたことで、意欲も高まり、家庭でも実践しようとする児童が増えた。 【課題】 〇家庭環境や生活体験に個人差が大きいため、授業の進め方や支援の仕方を工夫する必要がある。	【成果】 〇調理や裁縫の実習は、学習アシスタントに毎回入ってもらうことで安全に実習を行うことができた。また学習アシスタントのサポートにより、一人ひとりに目が行き届き、知識として学んだことを実践することができた。 【課題】 〇実習だけでなく、すべての課題において、自分事として捉え、よりよい生活を自らつくっていこうとする気持ちを高めていく必要がある。	【習得と活用】 〇必要な知識や技能は、教科書だけでなく、タブレット端末等のICT機器を活用し、必要に応じて何度も繰り返して、学習できるような環境を整える。 〇家庭学習と関連付け、学習したことを家庭で実践させたり、ノートにまとめさせたりして学習内容の定着を図る。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎家庭科も、学びのスタンダードを取り入れたノートの形式を用いることで、自分の考えを表現しやすいようにする。